

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサークルつくばみどりの（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 17日		～ 2026年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	69	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2025年 12月 22日		～ 2026年 1月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	エビデンスのある専門的な支援を1時間の個別支援で受けることができる。	応用行動分析学を始めとした専門研修を配属時に受講する。	定期的なフォローアップ研修と自学の風土の醸成を行う。
2	保護者は支援の様子を観覧でき、個別支援の最後に当日の内容のフィードバックを受けることができる。	当日実施する5～10個の課題について実施記録を正確に取ったうえでデータを根拠に説明する。	正確な記録の技術と実施課題の数の増加を行う。
3	保護者は毎回個別支援の最後に子育てについて相談することができる。	困った行動の対処を中心に保護者からの聞き取りを基にした行動分析を行い、理論に則ったアドバイスを行う。	観覧スペースに子育て相談に関する掲示も行い保護者が相談しやすい雰囲気作りを行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育環境と小学校の環境に差があり、子どもが戸惑わないための適切な準備が必要。	子どもによっては、鉛筆を持つことや長時間の着席が難しく、就学準備を個別に進める必要がある。	小学校の環境に近い体験ができるプログラムを作成し、子どもたちが安心して入学できるよう支援する。
2	学校ごとの支援体制の違いにより、個々に応じた準備の仕方が異なるため、支援の標準化が難しい。	言語能力や社会性の発達に大きな個人差があるため、支援の進め方を柔軟に対応する必要がある。	集団活動の中でも個々の特性に応じた支援を提供し、必要なスキルを身につける機会を増やす。
3	自宅学習の習慣が定着しにくく、事業所内での学習支援だけでは不十分になることがある。	一人ひとりの得意・不得意が異なり、学習の進め方や支援内容を調整する必要がある。	個々のベースに応じた学習計画を立て、達成感を得られる仕組みを作る。